

41163

教科書文庫

4
720
42-1940
0130 449338

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

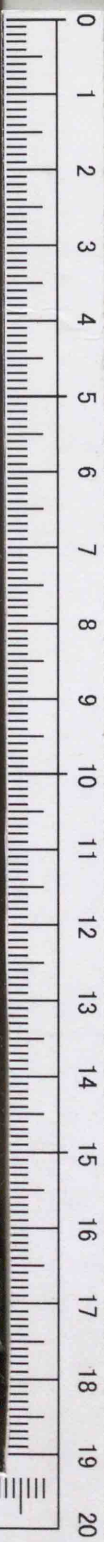
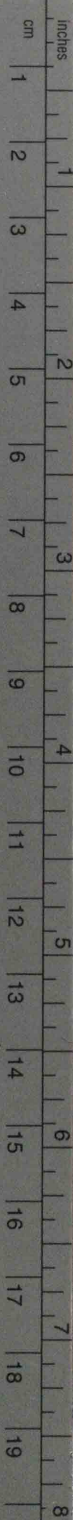


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

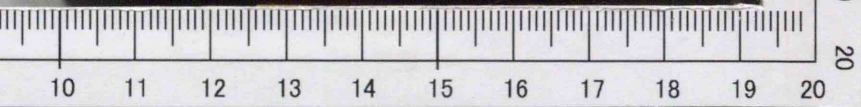
© Kodak, 2007 TM: Kodak



昭代女子習字帖

制四年

卷四



日三十月六年五十和昭
濟定檢省部文
用科語國校學業實・校學女等高

昭代女子習字帖

石橋啓十郎
比田井元子
共編書

東京
大阪
修文館發行

序

本書は改正の新要目により四年制度高等女學校及び之と同程度の女學校用習字教科書に充てんが爲に編纂したものである。

本書は教材の選擇及配列にあつては生徒の書能力の系統的階梯を考慮し、基本教材に配するに、練習應用(實用及趣味)鑑賞の教材を以てし、併せて書道趣味の涵養に資し、漢字及假名文字の揮毫にあつては各々専門とするところを分擔したるも出來得る限り兩者の調和と統合を圖りたるものである。

広島大学図書

0130449338



五十鈴川のほろけ

たからやまの霞むらめ

内外のみやうてい

はうゆきよしのちよる

朝に露を踏んで生で夕も星は
戴て歸る農まきそは菜葉
膝に身をさかんで油よみかた

職工折靴紙小脇下り通ふ勤人
が一日に激務に綿のやうな疲
れで家路よ急ぐ被等乃

姿として生活線よふ躍る河也
尊い崇高以姿ではあやあせん
かたの男性活躍は原動力とされ

とれし言に吾等女性の努力で
ある事を確信しなれど
けふふと思ひこむ

しんせうしんせう

たのしみしんせう

しんせうしんせう

しんせうしんせう

大般若波羅蜜多經卷第五

耳鼻舌身意識界寂靜不着耳鼻舌身意識
界不寂靜不着眼識界空不着眼識界不空
不着耳鼻舌身意識界空不着耳鼻舌身意
識界不空不着眼識界无相不着眼識界有
相不着耳鼻舌身意識界无相不着耳鼻舌
身意識界有相不着眼識界无顛不着眼識
界有顛不着耳鼻舌身意識界无顛不着耳

海もの音——みよふふふ

野乃喜れ楳——ね葉のよ

——さきき——わつるあ——れ

ふのたきき——れ——ねんあ——にち

——た——毛ねんあ——にちち物

——ふふ——思き——のら——あし——

ぬわづあつの妻子はあゆ
しとらまどひおんまひ
こいくえはみはるる

九重の帝都は今は城はあ
かのありみをおもさぬいひふ
出くあまこりあらむ
右記の文より

よみひき

あぢかひるゝあぢかひるゝあぢかひるゝあぢかひるゝあぢかひるゝ
あぢかひるゝあぢかひるゝあぢかひるゝあぢかひるゝあぢかひるゝ

よみひきあぢかひるゝあぢかひるゝあぢかひるゝあぢかひるゝあぢかひるゝ

よみひきあぢかひるゝあぢかひるゝあぢかひるゝあぢかひるゝあぢかひるゝ

(高野切 第三種)

月丸桂き手おろし

ふやらの花しかぶすし

ほろけろしはふ成るも

ふら葉のそしはふ成るも

あーのっもよしのや
あーのっもよしのや
あーのっもよしのや
あーのっもよしのや
あーのっもよしのや

水みねえいしんは月二十一日と
京いしんはあそそのあそいしんは
や指ふあそいしんはあそいしんは
お茶館いしんはあそいしんは

詠子の中城のいしんはあそいしんは
づくおかぢかえりしんはあそいしんは
よぶいしんはあそいしんはあそいしんは
田の程よりいしんはあそいしんは

よきこととせむしとくもくもく
まら葉乃ぬ葉せしとくもくもく
ちかき心持をよぶおこしとくもく
時のよわけりつとくもくもくもく

のたそくたそくたそくたそく
おやしとくもくもくもくもく

五月二日 武子

音子

小満の古塔のたもと

しづか子かなりせむ

うたのいそとこをたふ

そとふまはくちり

うねのなれつとら

くあはきつらふ

あまきこほりえあるはらた

あまきこほりえあるはらた

あまきこほりえあるはらた

あまきこほりえあるはらた

あまきこほりえあるはらた

あまきこほりえあるはらた

善れり づば 海なる 入るは

歌かたの 佐久の 子笛

ちくさ 川いせよ ぬ波乃

岸近き ちやぞ ぬのり

あさり 酒濁さる けにて

とこ 枕しき ちかき せむ

遠く離れておる人に新しく

唯大空城より眺めるとは如知

乃人々今いゝの様よか暮るる

む野心のさあしと懐くかの

履 歷 書

本 籍
現住所

兵庫縣武庫郡甲子園百五番地
東京市神田區淡路町二丁目三番地

戸主 貞夫長女

齋藤光子

大正十二年二月一日生

一 昭和四年四月東京市神田尋常小學校ニ入學シ

昭 和十年三月同校ヲ卒業ス

一 昭和十年四月東京府立第三高等女學校ニ入學シ

昭 和十五年三月同校卒業ノ見込

一 賞 罰 十シ

右ノ通り相違無之候也

右

昭 和十五年二月十五日

齋藤光子

澄

金何圖也

右正字清所中後也

昭和 年 月 日

何某

何某樣

1 獸骨文



2 鐘鼎古文



3 石鼓文



書史と代表的碑法帖

一、楷書以前の文字

1. 【殷、周時代】 漢字の起源については明らかでないが傳説的には黄帝の時代史官の蒼頡が始めて文字を作つたと云ふことになつてゐる。然し現存の文字で一番古いものは殷の龜甲獸骨文である。それに次では殷から周にかけての銅器の銘に遺つてゐる鐘鼎古文(大篆)である。そして此の時代の石刻文としては石鼓文が最古著名のものである。

1 龜甲獸骨文……近年河南省地方から龜甲獸骨に

文字を刻したものの數萬片を發掘し、研究の結果殷の時代占卜用のものと斷定され古代文字研究上貴重な資料となつたものである。

2. 鐘鼎古文……周から殷にかけて鐘や鼎等の銘に用ひてある文字で渾厚雄大な趣きのあるものが多い。此れは有名な孟鼎である。

3. 石鼓文……石刻最古のもの周の宣王の時史籀の書いたものと稱せられてゐるが其年代については異説が多い鐘鼎古文よりも文字も大きく均勢もよくとれてゐる。

1 泰山刻石



2 五鳳二年碑



3 孔廟禮器碑



4 西狹頌



2. 秦篆、漢隸

秦の始皇帝が覇權を握るや丞相李斯をして古文を參考として秦篆(小篆)を作らしめたと云ふことになつてゐるが此れもおそらく李斯獨りの創作ではあるまい。此頃また下邳の程邈が隸書を作つたと云はれてゐる。

然し隸書の最も世に行はれたのは漢時代である。そして前漢に行はれた古雅な隸書を古隸と云ひ後漢の隸書を八分と呼んでゐる。八分は上谷王次仲の創作と云はれてゐる。

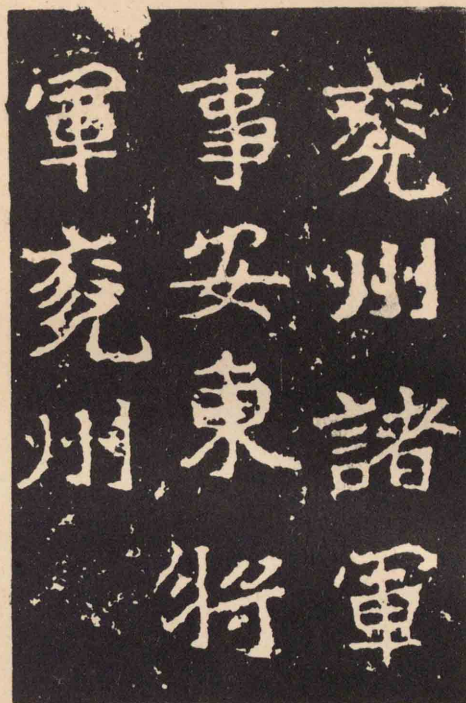
1. 泰山刻石……秦の始皇帝が名山大川を巡遊した際の記念として遺したもので李斯の書と云はれてゐる。

2. 五鳳二年碑……隸書石刻最古のもので古隸の代表的作品である。縦横共に波磔なく篆書の筆意がある。

3. 孔廟禮器碑……漢碑中最も謹嚴にして最も品位あるものである。

4. 西狹頌……漢碑中刻がよろしく用筆も明快で寛博雄大な趣きもあり隸の入門書として好適である。

1 鄭文公碑



2 張猛龍碑



3 龍藏寺碑



二、楷書の時代とその代表作（其一）

1. 【三國六朝時代】此の時代は漢隸から今體の楷書への過渡期に當り、雄健にして大膽な用筆とまだ充分に整はない結體に却つて藝術的な妙味をたゞよはせてゐる。
2. 【隋時代】隋唐は楷書の完成期である。隋は北碑の雄健と南帖の雅鍊とを合せて整齊雅健な書風を出し、正に初唐へ至る過渡期をなしてゐる。

1. 鄭文公碑……北碑中の代表作で圓筆を以てなり極めて雄大なもので各體の筆意を含む。
2. 張猛龍碑……龍門造像記と共によく北朝健勁な筆致を發揮し、字々方筆より成る。
3. 龍藏寺碑……隋碑中の傑作、書法遒勁にして六朝書の寒險の癖なく、初唐の先聲をなしてゐる。



碑堂廟子孔1

子曰聖人之德上
太清下及太寧中

2 九成宮醴泉銘

素江夏安陸人也
從里成仁繼跡於

3 孟法師碑

無形潛來善以化
物是以窺天鑿地

4 雁塔聖教序

國公顏真卿

5 建中告身帖

三、楷書の時代とその代表作（其二）

3 【唐時代】 唐は楷書の完成期であるばかりでなく書道全體から見て黄金時代である。上は太宗を初め、虞、歐、褚、顔の諸大家が輩出した。

初唐の楷書は夫々大家の性情によつて異つては居るが概して一般には瘦健、純雅で正楷の極則を遺してゐる。

中唐玄宗の頃顔真卿出づるに及び書風一變して概ね肥厚になり渾樸な書風が歓迎されるやうになつた。

1. 孔子廟堂碑……虞世南の書、品位に於て有唐第一と稱されてゐる穩雅にして風韻の饒なるものである。

2. 九成宮醴泉銘……歐陽詢の書、筆力の雄健にして歐書中最も氣宇の大なるものである。

3. 孟法師碑……褚遂良書、褚遂良壯年の書で最も普遍性のあるものである。

4. 雁塔聖教序……褚遂良書、彼の晩年の傑作、筆意の變化に富み結體に拘つてゐない所が特色である。

5. 建中告身帖……顔真卿の晩年の楷書にして筆力雄健肥厚の裡に骨力がある。

1 蘭亭叙

永和九年歲在癸丑暮春之初
 會稽山陰之蘭亭脩禊事
 也羣賢畢至少長咸集此地
 有^小嶧領茂林脩竹又有清流激
 湍映帶左右引以為流觴曲水

2 九月十七日帖

九月十七日
 孔侍中
 領軍
 疾後

3 集字聖教序

生四時五刑濟寒暑以化
 是之寔天鑑地痛思皆識

四、行草書の成立と代表作

行書の起源は既に漢代にあると云はれてゐるが今
 體の行草書の完成期は細々と同じく東晉二王の頃
 と見るべきであらう。

六朝北碑が豪快素朴な楷書を遺してゐるのに反し
 南方晉は優雅秀潤な行草書帖を澤山遺してゐる。
 その後行草書は實用に便利なところから唐宋元明
 と永く流行したが晉代の韻致に勝るものは出な
 かつた。寧ろ日本の平安初期に名品が少くない。

1. 蘭亭叙……王羲之書右軍の書中最も有名なもの
 で古今行書の代表作、適媚剪健な筆致は他に及ぶ
 ものがない。

2. 九月十七日帖……王羲之の眞蹟として傳へられ
 るもので御物喪亂帖と共にもと正倉院御物中に
 あつたものであらう、比れに似たものに遊目帖が
 ある。

3. 集字聖教序……唐の太宗が僧懷仁に命じて二十
 餘年の歲月を費して之の字を集め作つたもので
 行書手本として最上のものである。

1十七帖



2 書譜



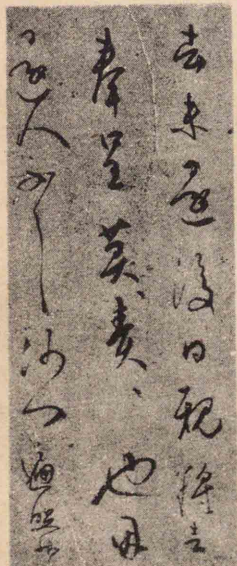
3 懷素自叙帖



4 玉泉帖



5 風信帖



五、草書の時代と名品

草書は大體行書と同じく東晉二王に於て其の全盛を極めたがその淵源は寧ろ楷行よりも古く漢代草にその源を發してゐる。

二王以後唐に入つて孫過庭、張旭、懷素など名手を出したがその後も宋元明清と流行したのであるが此れも後世程その格調が下つてゐる。

草書も却つて日本の上代によいものがある。

1. 十七帖……王羲之の尺牘を集めたもので草書を學ぶ定本である。筆力が雄健で少し堅いが習つて弊は少い。

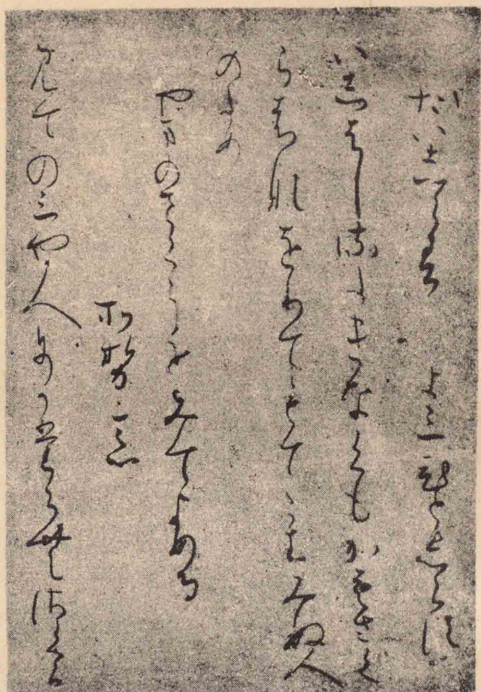
2. 書譜……唐孫過庭書、書論を書いたもので唐代草書中の白眉で變化に富んでゐる。

3. 自叙帖……唐懷素書、連綿體を以つて有名で特に自叙帖は彼の得意の狂草體である。

4. 玉泉帖……小野道風書、行草を雜へ書いたもので和様の鼻祖とも見るべきものである。

5. 風信帖……空海書、空海が最澄にやつた書翰の一つで未だ和様の臭味なく唐人の名蹟に接するやうである。

1 關戸本古今集



2 高野切第一種

よふはくろりそありなるは
 ゑこのるまふつらう

3 桂宮萬葉集切

いじよふしけみこころつあふれ
 こころあふることあふれわを

六、假名書道と代表的名筆

假名はもの漢字(本字)に對して假字とも云はれその源は漢字からの派生であるが、それが我國上代文化の精華として獨特の發達を遂げたものである。従つて今日、草假名の範は多く平安朝の古筆にとつてあるやうである。我等は此等の古筆に培つて更に新時代の假名の創作に邁進せねばならない。
 左には本文挿入の傳行成筆御物朗詠や寸松庵色紙高野切第三種以外のものを掲げやう。

1. 關戸本古今集……上代様假名中最も傑出した名蹟で朗詠や高野切によつて相當假名文字習練の後に習ふべきものであらう。

2. 高野切第一種……高野切は傳紀貫之書と云はれてゐるが一人の筆でない第一、第二、第三各々その趣を異にしてゐる第一種は品格高く而して雄渾謹嚴の中に流麗もあり變化に富むものである。
3. 桂宮萬葉集切……只今は御物になつてゐて高野切第二種に似て高雅なものである。

卷四 内容備考

〔一〕 五十鈴の川のこぼりとけたかく
らやまも霞むなり。

内外のみやのへだてなくさかゆ
る春になりけり。

(草書練習)

〔二〕〔三〕 朝に露を踏んで出で夕に星
を戴いて歸る農夫さては菜葉服
に身を包んで油にまみれた職工
折靴を小脇に通ふ勤人が一日の

激務に綿のやうに疲れた體で家

路に急ぐ彼等の姿こそ生活線上
に躍る何と尊い崇高な姿ではあ

りませんか、此の男性活躍の原動
力となるものは實に吾等女性の

努力である事を確信しなければ
ならないと思ひます。

(調和體練習)

〔四〕 さつきやみおほつかなきにほと
ときすなくなる聲のいととはる

けき。

(配字練習)

〔五〕 法隆寺行信經。(大般若經)

(古筆鑑賞と實習)

〔六〕〔七〕 落花の雪にふみまよふ……。

(天平記の文による)

(草書練習)

〔八〕 高野切第三種。(傳藤原行成書)

(古筆鑑賞と實習)

〔九〕 月の桂も手折るべしことばの花
もかざすべし。

つきのかつらはたをるとも言葉
のはなはかざすらん。

(趣味的應用)

〔十〕 寸松庵色紙。(傳紀貫之書)

(古筆鑑賞と實習)

〔十一〕〔十二〕 おふみ拜見いたし……。

(實用的應用)

〔十三〕 小諸なる古城のほとり雲しろく

遊子かなしむみどりなすはらべ

はもえず若草もし久によしなし

ゝろかねの衾の岡邊日にとけて

あわ雪ながる。

〔十四〕 あたゝかき光はあれど野にみつ

る香もしらす淺くのみ春は霞み

てむぎの色わづかに青したび人

(實用的應用)

昭和五十二年二月十日 印刷
 昭和五十二年二月二十五日 發行
 昭和五十二年五月二十五日 訂正再版印刷
 昭和五十二年五月十三日 訂正再版發行

(年四制) 帖字習子女代昭

全 四 冊

定 價 各 卷 金 參 拾 五 錢

著 者
 所 有 權

發 行 所
 修

編輯者	石橋啓十郎
編書者	比田井元子
發行者	東京修文館
發行者	株式會社 修文館
印刷者	株式會社 秀美堂

代表者 鈴木金之助
 東京市神田區神保町一丁目二五
 代表者 鈴木金之助
 東京市神田區神保町一丁目二五
 代表者 鈴木金之助
 東京市神田區神保町一丁目二五
 代表者 鈴木金之助
 東京市神田區神保町一丁目二五
 代表者 鈴木金之助
 東京市神田區神保町一丁目二五

大阪市東區博勢町五丁目一
 大阪市東區博勢町五丁目一
 大阪市東區博勢町五丁目一
 大阪市東區博勢町五丁目一
 大阪市東區博勢町五丁目一

〔十五〕 のむれはいくつか鼻中の道をしそぎぬ。
 暮れ行けば淺間も見えず歌かなし
 佐久の草笛ちく万川いざよふ
 波の岸近きやどにのぼりつにごり酒濁れるのみてくさ枕しばしなぐさむ。

(趣味的應用)

(趣味的應用)

(趣味的應用)

(調和體練習)

〔十九〕 受取證の認め方。(實用的應用)
 〔二十〕 扇面參考。
 上、長尾雨山書 下、比田井小琴書。(鑑賞と實習)
 〔二十一〕 書史と代表的碑法帖。(書道鑑識)
 〔二十二〕 秦篆漢隸。(書道鑑識)
 〔二十三〕 楷書の時代とその代表作。(其二)(書道鑑識)
 〔二十四〕 楷書の時代とその代表作。(其一)(書道鑑識)
 〔二十五〕 行草書の成立と代表作。(書道鑑識)
 〔二十六〕 草書の時代と名品。(書道鑑識)
 〔二十七〕 假名書道と代表的名筆。(書道鑑識)

広島大学図書

0130449338

